

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所 にじいるCOMMON		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	グループ内に社会福祉士、公認心理士、言語聴覚療法士、作業療法士の医療職が在職しており、多様な専門職による支援を行うことで、多角的な視点での支援を提供することができる。	専門職による連絡会を設け、横での連携を強化することにより多様な専門知識による支援を行えるような体制を整えている	4月より管理栄養士との連携が増え、今までにはなかった食の面からのサポートも行えるようになる
2	グループ施設の児童発達支援事業所との連携が可能で、保護者の多様なニーズに十分に対応できる体制が整っている。	上記の専門職連絡会以外にも、児発管連携、保育士を含む支援員との連携の時間を確保しており、様々なケースに対応した支援プログラムを準備している	保育所、児童発達支援事業所間のみにとどまらず、就学に向けて小学生低学年向けの放課後等デイサービス事業所との連携も行い、環境の変化による支援絵の影響を最小限にとどめる
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望者が増大した際の体制構築が困難	配置人員が限られているため、利用希望者が増大した際に迅速に体制を整えるのが困難になる。	グループ内の既存利用者様や地域の関係機関と情報共有を密に取り、保育所利用のニーズを細やかに把握し、体制の強化を行っていく。
2	記録義務やモニタリング、支援計画等の記録・書類作成業務に時間がかかり、支援時間の確保との両立に苦慮している	きめ細やかな支援を大前提としているため、配置可能な人員数に対して業務量が通常よりも膨らむ傾向にある	支援の時間、質を低下させることはできないため、書類業務をシステム化し、効率化を図ることで書き物の時間を削減する。
3			